

治療の基本は弁証論治、男女の子宝相談に特化し絶大な信頼を獲得

漢方相談薬局として早くから専門性の必要性を自覚し、「子宝相談、不妊症相談」をメインとした店づくりに取り組んでいるエビスヤ漢方薬局様。地域の患者さんに絶大な信頼を獲得する小池先生に、子宝相談・不妊症治療のポイントについて伺いました。

ポイント① 漢方相談に取り組むきっかけご主人も一緒に相談できるようにするため、男性科を創設

エビスヤ漢方薬局様の店頭には、大きな文字で「漢方で赤ちゃんが授かる母体づくり」という言葉が書かれている。漢方相談のうち3分の1が「子宝相談、不妊症」で占める同店の姿勢をひと言で示した言葉といえる。

現在は男女ともに不妊を受けているが、最初は男性不妊症を対象としていたという。「漢方薬局でもこれからは専門性が必要だと考え、男性不妊に取り組むことにしました。西洋には男性の不妊症や更年期障害を治療するandrology(男性科)という専門の診療科目があります。ところが日本では男性が不妊治療などをする場合、婦人科や産婦人科で肩身の狭い思いをしながら受けているのが実情です。バイアグラが媚薬のように扱われて脚光を浴びたことがあります、もっときちんと男性不妊の相談ができる場を作ろうと考えました」

漢方男性科のコーナーを設けたほか、ホームページも立ち上げた。

「男性は意外にデリケートです。薬局で買いつらい商品を顔を合わせずに購入できるようにホームページを作り、問診表を載せてメールで回答するシステムを作りました」と小池先生。ED(勃起障害)の男性を中心に非常に多くの反響があったという。それを機に、女性にも対応できるように問診表も



▲店頭には「漢方で赤ちゃんが授かる母体作り」と、お店の姿勢が明確に表現されている

バージョンアップ、次第に女性の不妊症に力を入れるようになったそうだ。

ポイント② 現代女性の着床率が低いワケ 長期にわたっての排卵誘発剤の使用や夜型生活への変化、食生活の洋風化などが背景に

現代女性は総じて着床率(妊娠率)が低いそうだ。最新医療といわれる顕微授精の現場でも着床率が低いのが現状で、仮に着床しても出生まで至らない例が多いという。

着床率が低い理由は次の3点、と小池先生は指摘する。1つは卵巣そのものの疲弊だ。

「当店は『不妊』を前面に押し出している、長い間不妊症治療を受けている女性が非常に多いのが特徴です。そういった女性は、内服・注射等を含め排卵誘発剤をかなり使っている、卵巣が疲れている、卵子の発育不良、卵胞が古くなっていることと頸管粘液が不足して受精率を落としていると考えられます。漢方的に言うところの陰虚の状態ですね」

2つめは生活様式の変化。特に睡眠時間の減少、夜型生活の影響が大きいそうだ。

「本来は肝臓からみずみずしい新鮮な血液が子宮や内膜に運ばれて、臓器としての正常な活動を行うわけですが、夜型生活をしていると、子宮に行く血液が少なくなったり古い血液しか行かなくなります。地方よりも都市部に不妊症の女性が多い理由もそこにあります。腎陰虚の処方化療薬が含まれているのもそのためでしょう」

3つめは体を締め付ける衣類に問題があるという。一般的に思春期までは性差はあまり見られないが、生理が始まるころから徐々



▲エビスヤ漢方薬局様のホームページと不妊専門の問診表。設問は25項目に及び、写真入りの舌苔見本のほか、きめ細かな質問が設けられている

に体型が変わり、女性はお尻が大きくなって出産への準備を始める。ところが最近、ジーンズやガードルなど腰を締め付ける衣類を身につけるようになってきた。

「こうした締め付けるものを履いて、目や頭を使うパソコンをします。目も肝臓から血液をもらっていますから、内膜に栄養がいかなくなる、子宮が育たないということが起こるのです。子宮が育たないのは、最近の赤ちゃんの体重が2500~2600グラムと少ないことでもわかります」

ポイント③ 虚実寒熱を基本に 弁証論治のもとに処方を決定する

「不妊症は腎陽虚、腎陰虚、血虚、寒凝、気滞、痰湿、血瘀などの病証に分類できます。しかし背景には根底にある婦人科疾患と長引いた不妊治療にストレスが加わった状態があるわけですから、きちんと弁証論治して処方を決定することが大切です」と小池先生。不妊症だけに目を奪われないで、目の前の女性の体を治してあげるという姿勢で接す

ることが大事だと強調する。

「虚実寒熱を基本に考えて、虚があれば補うし実があれば瀉す。私は子宮内膜は農作物を育てる土壌と同じと考えています。酸素がいっぱいよく耕された土壌を作らなければいい作物は育ちません。証がどちらに比重があるか、どこを治す必要があるかを重視して治療します。桃核承気湯や大柴胡湯で妊娠した方もいます」

よく用いる薬剤をご紹介いただいた。心腎陰虚タイプの不妊症によく用いるのが天王補心丸。これにケアリプラを加えて処方することが多い。「ケアリプラには漢方的な滋養成分は含まれていませんが、大豆イソフラボンには子宮内膜を厚くする効果があり、天王補心丸に加えると陰虚と血虚の改善が確実に早まります。基礎体温の高温期が維持できないのは陽虚と言われていますが、陽は陰から生まれるものなので、きちんと陰の部分の土台を作らないと陽が上がれません。ですから、ケアリプラをプラスすると高温期がしっかりしてくるでしょう」と小池先生は分析する。

鹿茸大補湯は腎陽虚と気血両虚のタイプで、全身が冷える女性に用いる。

「舌が紫色で不妊もそうですが不育、流産を繰り返す方。母体として腎陽虚が見られれば使っています。鹿茸大補湯は当帰芍薬散や温経湯との相性がいいように思います。骨盤を温める力が強いので、服用された女性は『お尻から腰の周辺が暖かくなる』と言われます」

ストレスの影響からくる瘀血タイプの不妊には冠脉通塞丸が適しているという。

「腎の栄養源になる生薬は植物性では地黄だと考えています。最終目的は妊娠ですから、瘀血をとりながら滋陰ができる冠脉通塞丸がよいと思います」

ポイント④ 不妊の原因をわかりやすく説明して、「私でも妊娠できる」と自信をつけさせる

相談は原則として完全予約制で行っている。その理由は、患者さんのプライバシー

を保護することにある。

「産婦人科の待合室に行くと、お腹の大きいお母さんに混じって不妊症治療を受ける女性も一緒に待っていないくはなりません。診察に行くのがつらい、と以前患者さんに泣かれたことがありました。それ以来、ほかの患者さんに話が聞こえないように、完全予約制でお話するようにしています」

不妊症患者との対応で、最も気をつけていることは、同情することではなくトンネルの出口へと導く案内人となり安心感を与えることだという。

「患者さんの多くは、不妊症の治療を試みています。排卵誘発剤で排卵をし、受精しているのに『なぜ妊娠しないの?』という不安感を抱いて来店して

います。その不安感を取り除くために、農作物と同じように畑を耕して子宮内膜の状態がよくなれば、『経血がきれいになって、血の塊もなくなります』と本人の自覚を促していきます。1カ月もすると、『流れる血液と同じになってきた』と妊娠への希望を持つようになります。ストレスがなくなって自信が芽生えるのが非常に大きいのです」

ポイント⑤ 治療の目安は約半年 前半3カ月は避妊期間で母体づくり

初回の相談から妊娠までの期間の目安は「概ね半年」としている。

「まず、体の改善にかかる期間として3カ月間は避妊してもらい、残りの3カ月間で妊娠に向かう努力をしましょう、というお話をします。私たちが担うのは母体づくりです。この期間をおかないと、精子に対しての抗体ができていますので、精子を殺してしまいます。ところが一定期間おくと、その抗体が落ちて精子を受け入れる体勢ができるのです。とにかくご主人の精子を入れない期間を設け



◀相談コーナー。相談は完全予約制で行われている

ることが大事で、その間に母体としての土壌の質を高めるようにします」

男性、女性を問わず、不妊症治療の場合、販売後のフォローはしていない。

「先方からの問い合わせには懇切丁寧にお答えしますが、こちらから電話をかけたたりハガキを出したり、ということは一切していません。もしかしたら家族にも内緒にしているかもしれませんし、それが患者さんとの信頼関係の証でもあると思います」

ただし、リピート率、口コミは非常に高い。

「不妊の患者さんは産まれるまでは内緒にしていますが、産まれたら必ず紹介してくれます。1人で6人もの患者さんを紹介してくれた患者さんがいらっしゃいました。もう1つは、他の病気の場合は治っても嬉しいのは本人だけです。ところが不妊症治療は、ご夫婦だけではなく、それぞれのご両親、家族から喜ばれます。また産前～産後…と母体の健康維持のために長くお付き合いできます。漢方が最も得意な分野である不妊症を専門とする意義は大きいと自負しています」

症例紹介

① 不正出血のある腎陽虚の女性

● 性別・年齢 女性・31歳

● 主な症状と経過

やせ型で冷え症、寒がり、疲労症、立ちくらみ、目が疲れる、皮膚がカサカサ、生理不順(不定)。生理の高温期で不正性器出血があり、子宮内膜を保持できない。

腎陽虚、気血両虚と考え、鹿茸大補湯を1日3回、1カ月間服用してもらった。3カ月の服用で生理が順調になり、体力がついてくる。35度台だった基礎体温が36度台になり、二相性が作れるようになる。補腎によって「産む力」が強くなったことは評価できるものの、一方で生理の後半になると不正出血が起る。そこで、鹿茸大補湯を半量に減らし、脾の統血作用に期待して加味帰脾湯を加え、それぞれ1カ月分とする。鹿茸大補湯の量を減らしたのは、同処方に含まれる附子が出血に影響を及ぼしている可能性があるため。1カ月後には不正出血が止まり、2カ月目には妊娠が確認される。10カ月後には、元気な男児を出産したとの連絡が入る。

② 基礎体温の二相性を維持できない

● 性別・年齢 女性・36歳

● 主な症状と経過

排卵誘発剤とホルモン剤を長年にわたって使用しているため、基礎体温の低温期が上がりにくく、高温期との差がなくなっている。また排卵期にあるべき子宮頸管粘液の分泌がほとんどないため、子宮が乾いてしまっている。他の自覚症状としては、手足のほてり、不眠、動悸、抑うつ感などが見られる。

心腎陰虚と判断し、天王補心丸とケアリプラをそれぞれ1カ月分ずつ渡す。さらに高温期に差し掛かるころを見計らって、香蘇散を1週間限定で服用してもらった。

漢方薬の服用とともに、3カ月間の避妊を指示。4カ月目の避妊解除とともに妊娠し、無事出産する。

③ 抑うつ感が強い男性不妊

● 性別・年齢 男性・38歳

● 主な症状と経過

抑うつで気分が重い。いつも仕事に追い立てられている観がある。胸脇部が張り、口が苦い。眠れない。性欲が低下。精索静脈瘤との診断を受けており、人工授精を3度試み、体外受精を勧められている。

気滞血瘀によって宗筋が弛緩し勃起不全を起していること弁証し、冠脉通塞丸と竜胆瀉肝湯をそれぞれ1日3回、1カ月分服用してもらった。1カ月後に見えたときは、不眠が改善し朝、勃起が見られるようになったと喜ばれる。同処方をもつまま継続し、3カ月後に妊娠が確認される。

男性不妊の場合は特に避妊期間を設けないこと。